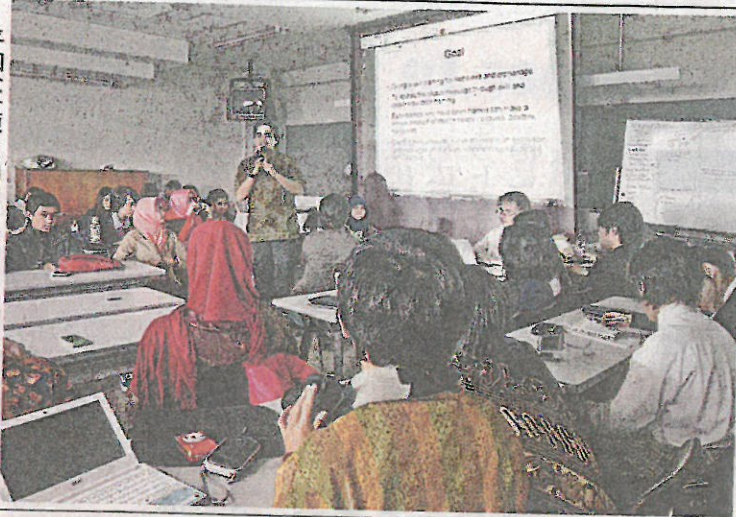


# 人材育成や高校生会議： 平和へ38の行動計画

## 「青少年大使」が作成し発表

国内外の高校・大学生が平和な世界の実現に向けて考える「青年平和大使ワークショップ」の具体的な行動計

平和な世界に向けて作った行動計画の発表会



主な行動計画

計画	立案者の国・地域
ボル・ボト派大虐殺や広島原爆を通しての平和教育	カンボジア
平和に関する写真や絵を載せた本を作って学校に配布	日本、カナダ
ジョクジャカルタ青少年平和フェスティバルの開催	インドネシア
1999年9月の大地震などによる孤児が希望、勇気を持つる動機付け	台湾
学校での教師による体罰をなくすキャンペーン	パキスタン
高校生による平和会議の開催	日本
環境に関する国際写真コンテスト	韓国、台湾
平和コンサート開催と映像作品の制作	タイ
指導力のある人材育成	バングラデシュ
人権と平和についての知識の向上	ウズベキスタン

画を作成して閉会した。

日本を含む16カ国・地域から参加した105人が、個人やグループで3日間かけて作った計画書をスクリーンに映して発表。高校生向けの平和番組の制作や、平和会議の開催など、地域の現状に基づいた行動案で、費用や効果、スケジュールなども盛り込んだ内容となっている。

タイの高校2年ファティマ・カーンさん(16)はバンコクでの平和コンサート開催を提案。フランスの細かいシナリオを作る中で、自ら成長できた。帰国したらすぐ行動する」と意気込んでいた。ワークショップは、国連教育科学文化機関(ユネスコ)バンコクオフィスと、国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所、広島平和文化センターの主催で24日に開会。原爆資料館(広島市中区)を見学し、被爆体験を聞いたほか、ユネスコやユニタールのスタッフによる外交や平和構築に関する講義などもあった。

(二井理江)



2 April 2012, Chugoku Shimbun  
UNITAR Hiroshima Office joined UNESCO  
Youth Ambassador Programme and gave  
a lecture to them.